

文部科学省「学校・家庭・地域連携協力推進事業費」補助事業

社会総がかりで取り組む教育の推進X

～令和2年度 学校・家庭・地域連携推進事業 実践事例集～



愛媛県教育委員会

はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、本県においても多くの方々に様々な影響を及ぼしました。そのような中で、各地の教育現場においては、感染拡大防止に十分配慮しつつ、地域と学校の連携・協働による子どもたちの学びを止めないための取組や、安全・安心な居場所づくり、保護者への相談体制確保等の努力が続けられました。未曾有の事態に対し、学校と地域、家庭、行政等が丸となって知恵と工夫を出し合い、それぞれの現場で子どもたちの健全育成に御尽力いただきましたことに対し、心から感謝を申し上げます。

さて、今年度から新学習指導要領が順次全面実施となり、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、家庭や地域の人々とともに子どもを育てていくという視点に立ち、地域学校協働活動を進めながら、学校内外を通じた子どもの生活の充実と活性化を図ること、学校、家庭、地域社会がそれぞれ本来の教育機能を発揮し、全体としてバランスのとれた教育を実施することが求められています。

県におきましても、愛媛県教育基本方針・重点施策の第一に「社会総がかりで取り組む教育の推進」を掲げ、各種施策に取り組む中、学校・家庭・地域連携推進事業は、その中核的な事業として、各市町・地域における協働活動の充実に取り組み、実績を積み重ねています。特に、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの一体的推進や企業等の活用促進による協働活動の活性化等と有機的に関連付けて、地域住民との連携・協働体制づくりを推進することにより、地域の教育力の向上や、地域が人を育て人が地域をつくる好循環の実現、持続可能な地域づくりに寄与できるよう事業を展開してまいりました。

本事例集は、各市町教育委員会及び事業関係者の皆様の協力によって、県内各地での地域学校協働活動等の実践を取りまとめたものです。事業関係者をはじめ関係各位に御高覧いただき、「地域とともにある学校づくり」の一層の推進、そして、「学校を核とした地域づくり」に対する地域住民の主体的な意識高揚を図る取組にお役立ていただけますと幸いです。

結びに、本冊子の作成に当たり、格別の御指導・御協力をいただきました愛媛県地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会の委員の皆様をはじめ、各市町教育委員会、関係機関の皆様方に心よりお礼申し上げます。

令和3年3月

愛媛県教育委員会事務局社会教育課長

山 野 貴 志

も く じ

はじめに

I 事業概要及び県事業

1	事業の全体像	4
2	愛媛県地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会	7
3	活動別研修事業	8
4	普及啓発事業	20
5	教育サポート企業活用促進事業	24

II 市町事業

【地域学校協働活動】

①	四国中央市	30
②	新居浜市	31
③	西条市	32
④	東温市	33
⑤	久万高原町	34
⑥	大洲市	35
⑦	内子町	36
⑧	伊方町	37
⑨	宇和島市	38
⑩	鬼北町	39

【えひめ未来塾】

①	四国中央市	42
②	西条市	43
③	内子町	44
④	西予市	45
⑤	宇和島市	46

【放課後子ども教室】

①	四国中央市	48
②	新居浜市	49
③	西条市	50
④	今治市	51
⑤	東温市	52
⑥	久万高原町	53
⑦	大洲市	54
⑧	内子町	55
⑨	西予市	56
⑩	宇和島市	57
⑪	鬼北町	58
⑫	愛南町	59

【土曜教育活動】

①	新居浜市	62
②	西条市	63
③	上島町	64
④	東温市	65
⑤	愛南町	66

【家庭教育支援】

①	四国中央市	68
②	西条市	69
③	今治市	70
④	上島町	71
⑤	伊予市	72
⑥	砥部町	73
⑦	久万高原町	74
⑧	大洲市	75
⑨	西予市	76
⑩	宇和島市	77
⑪	愛南町	78

(参考)	放課後児童クラブ一覧	79
	えひめ学校・地域教育サポーター一覧	88
	えひめ家庭教育サポート企業一覧	90

Ⅰ 事業概要及び県事業

1 趣旨

地域の教育力の低下や、学校が抱える課題に複雑化・困難化といった社会的課題の解決を目指し、全ての子どもを健全に育成するためには、学校・家庭・地域が連携・協働して教育に取り組む体制づくりを一層強化する必要がある。

そこで、各地域と学校が、子どもの健全育成について目標やビジョンを共有することによって、地域住民等の参画による「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の効果的な取組を総合的に実施するとともに、県においても、保護者・教職員・地域住民及び企業関係者等が連携・協働して子どもたちを支える教育環境を整備するため、研修や普及啓発活動等に取り組む。

2 事業の概要

(1) 県事業

ア 「地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会」の設置

○ 主な役割

事業の在り方・成果等の検証・評価、地域と学校の連携・協働体制構築の検討 等

○ 人数:10名(学識経験者、福祉関係者、学校教育関係者、社会教育関係者等)

○ 開催回数:2回

イ 活動別研修事業

○ 目的:各事業それぞれの関係者の資質向上、情報交換等を図る。

○ 開催研修会

- ・ 地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な取組推進研修会
- ・ 放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会
- ・ 新・放課後子ども総合プラン指導者研修会
- ・ 家庭教育支援研修会

○ 内容:講義、事例研究、実技講習、インタビューダイアログ 等

ウ 普及啓発事業

(ア) 「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」(兼 合同研修)

○ 目的

県内の本事業関係者及び学校関係者、PTA、社会教育関係者、子育て・福祉関係者、企業、警察関係者等が一堂に会し、学校・家庭・地域の連携推進に係る成果と課題を検討する。

○ 開催回数:1回(松山市)

○ 内容:講演、分科会 等

(イ) 事例集の作成・配布

○ 実施市町の優れた取組事例の紹介

○ 市町教育委員会、事業関係者等に配布、データ提供及びホームページで公開

エ 教育サポート企業活用促進事業

○ 目的:企業等の活用促進による教育活動の充実と教員の負担軽減

○ 開催研修会

- ・ 教育サポート企業フェスタ（土曜日・放課後等の豊かな教育活動推進研修会）
 - 内容：講演・模擬授業・質問タイム 等
- (2) **市町補助事業**
- 各市町に、運営委員会を設置し、地域学校協働活動推進員やコーディネーター等の配置、活動内容・運営方法の検討、支援活動の実施を行う。
- ア 活動内容・運営方法の検討**
- 各地域の実情に応じた取組内容や事業の運営方法の検討等を行う。
- イ 人材の配置**
- 統括的な地域学校協働活動推進員及び統括コーディネーター等
各市町全体の教育支援活動や研修事業等の企画運営の中核となり、未実施地域や新規実施地域への協力・支援等を行う。
 - 地域学校協働活動推進員及び地域コーディネーター
各事業の企画運営の中心となって、学校や地域、地域の団体等との総合的な調整等を行う。
 - 学習支援員
放課後等の子どもの学習環境を整備し、学習支援を行う。
 - 協働活動支援員
学習支援・体験・交流活動等のプログラムを中心的に実施する。
 - 土曜教育支援員
土曜教育活動として実施するプログラムを中心的に実施する。
 - 家庭教育支援員
家庭教育に関する学習プログラムの中心的な企画・実施や保護者への相談対応等を行う。
 - 協働活動サポーター・土曜教育サポーター
プログラム実施のサポートや子どもたちの安全を管理する。
- ウ 協働活動の実施**
- (ア) **地域学校協働活動**
地域住民が学校と連携・協働し、教育活動を支援するとともに、地域住民の自己実現を図り、地域を活性化する活動
- 主な活動内容
郷土学習、学びによるまちづくり、体験・ボランティア活動支援、部活動指導、学校環境整備、登下校の見守り、補導時の対応など
- (イ) **えひめ未来塾**
地域の参画を得て、子どもが主体的に学習に取り組むことのできる場を設け学習を支援する活動
- 主な活動内容
放課後等の学習機会の提供と支援、学習習慣の育成、学習支援や悩み等への対応、学力強化シートの活用、教員OBの活用など
- (ウ) **放課後子ども教室**
全ての子どもを対象に、安全安心な子どもの居場所を設け、学習や体験活動等を提供する活動
- 主な活動内容
学習支援や文化、スポーツ自然体験活動支援、異年齢集団や地域の方との交流活動、児童クラブと一体・連携した取組など
 - ※ 放課後児童クラブと連携して「新・放課後子ども総合プラン」として実施

(エ) 土曜教育活動

土曜ならではの、企業・NPO 等の人材を活用した特色・魅力のある教育プログラムを提供する活動

○ 主な活動内容

プロや専門家の教育支援や継続的なプログラムの提供等

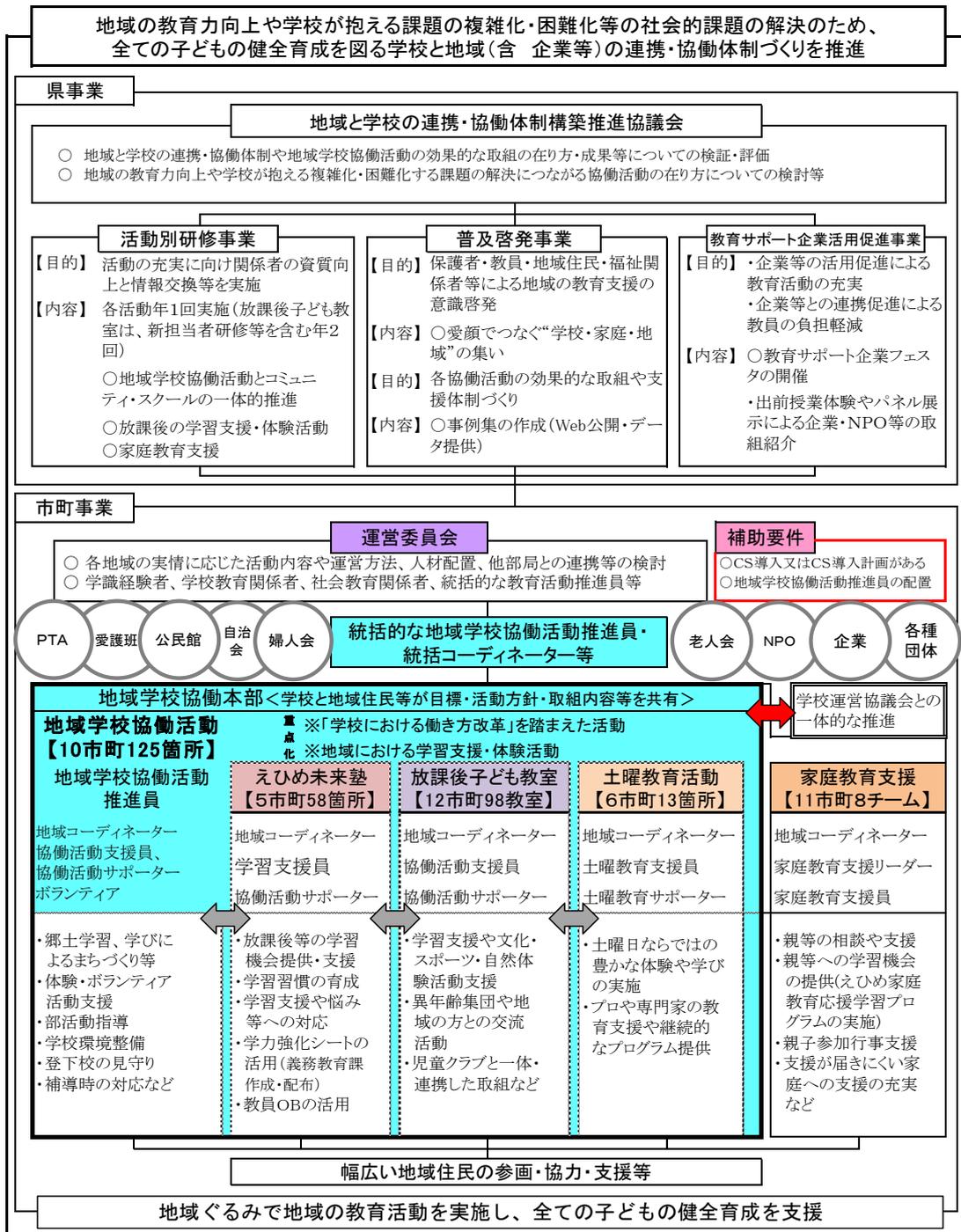
(オ) 家庭教育支援

親等への学習機会や情報の提供、相談体制の構築等、家庭教育支援の基盤を整備する活動

○ 主な活動内容

親等の相談や支援、親等への学習機会の提供(えひめ家庭教育応援学習プログラムの実施)、親子参加行事支援、支援が届きにくい家庭への支援の充実など

令和2年度 学校・家庭・地域連携推進事業構造



2	地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会
---	----------------------

1 概要

(1) 目的

学校・家庭・地域連携推進事業を、円滑かつ効果的に実施するとともに、地域の教育支援に関する施策の在り方や成果等について検証・評価等を行う。

(2) 委員構成

学識経験者、PTA団体関係者、教員等団体関係者、児童福祉関係者 等

(3) 業務

- 地域学校協働活動及びえひめ未来塾、土曜教育活動、家庭教育支援の在り方・成果についての検証・評価
- 「新・放課後子ども総合プラン」の実施方針、安全管理及び広報活動方策の策定
- 地域と学校の連携・協働体制構築の検討に関すること 等

2 令和2年度委員名簿

役職名	氏名	職名
会 長	遠藤 敏朗	愛媛大学教職大学院特定教授
副会長	宮崎 恵	愛媛県PTA連合会副会長
委 員	山田 誠	愛媛大学教育学部准教授
	川崎美代子	愛媛県連合婦人会副会長
	友近 裕識	愛媛県小中学校長会副会長
	樋口 志保	愛媛県学童保育連絡協議会会長
	豊田 克文 (～10月) 緒方 義彦 (10月～)	愛媛県市町教育委員会連合会会長
	岩本 透	愛媛県経済同友会総務企画委員長
	福本 政代	大洲市教育委員会地域コーディネーター
	水谷 一美	公募委員

3 会議の主な内容

回数・実施日	会場	主な協議内容
第1回 R2.9.18 (金)	教育委員室	○事業の概要及び実施状況報告 ○愛媛県内の特色ある取組の事例
第2回 R3.3.10 (水)	文教会館	○令和2年度事業実施状況報告 ○令和3年度事業実施予定説明

3	活動別研修事業
---	---------

1 目的

「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」に係るスタッフ及び市町教育委員会・学校等の関係者に対し、事例研究や講演等を通して研修を実施し、事業の趣旨・内容について理解を深めるとともに、効果的な取組の在り方について研究を行い、各地域の実践に生かす。

2 内容

対象活動名 研修会テーマ	実施日 会 場	参加 人数	主な研修内容
<p>地域学校協働活動 とコミュニティ・ス クールの一体的な 取組推進研修会</p> <p>子どもたちの育ち と学びを支える地 域づくりを考えよ う！</p>	<p>R 2. 7. 16 (木) 愛媛文教会館</p>	<p>189 名</p>	<p>○行政説明 ○事例発表 【事例発表①】「牟礼ミラタクネット」 牟礼公民館社会教育指導員 高崎豊子氏 牟礼中学校 教頭 曲 浩範 氏 【事例発表②】「内子町教育委員会」 立川小学校 校長 中本克也 氏 ○個人ワーク ○インタビューダイアログ 助言 愛媛大学教職大学院 遠藤敏朗氏 ○閉会行事</p>
<p>放課後子ども教室・ えひめ未来塾指導 者研修会</p> <p>「地域で愛顔あふ れる子どもを育て よう～子どもと大 人が学び合う放課 後にしよう～」</p>	<p>R 2. 10. 27 (火) 県生涯学習セ ンター</p>	<p>69 名</p>	<p>○開会行事 ○行政説明 ○講演 「魅力ある大人のススメ」 えひめこどもの城園長 敷村一元 氏 ○実技講習・事例発表 【体験活動部会】 「読書ボランティアビギナーズ講座」 えひめ紙芝居おはなし会 丸山康子 氏 【学習支援部会】 事例発表「小松地域未来塾」 地域コーディネーター 處 淳子 氏 小松公民館長 曾我部米治 氏 ○インタビューダイアログ ○閉会行事</p>
<p>新・放課後子ども総 合プラン指導者研 修会</p>	<p>R 2. 12. 13(日) にぎたつ会館</p>	<p>64 名</p>	<p>○行政説明 ○講演「新・放課後子ども総合プランにおけ る放課後児童の環境づくりと地域連携」 とベ子育て支援ぽっかぽか代表理事 村上明子 氏 ○事例発表 でこぼこクラブ（新居浜市） 玉津児童クラブ（西条市）</p>

対象活動名 研修会テーマ	実施日 会 場	参加 人数	主な研修内容
家庭教育支援研修会 「コロナ禍をはじめとする社会の変化に対応した多様な支援方法を探る」	R 3. 2. 15 (月) ～ 2. 26 (金) 動画配信による	278 名	○研修会の趣旨説明 ○県外 3 事例の発表 ※各チームの取組発表と県内家庭教育支援チーム員等による協議の様子を動画にして、動画共有サイト YouTube で期間限定配信 ①釧路市家庭教育支援チーム ②島田市家庭教育サポートチーム ③泉大津市家庭教育支援チーム ○動画視聴後アンケート、HP 掲載

3 「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組推進研修会

(1) テーマ

「子どもたちの育ちと学びを支える地域づくりを考えよう！」

～地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な取組から～

(2) 研修の概要

- 日 時 令和 2 年 7 月 16 日 (木) 10 : 00～14 : 30
- 場 所 エスポワール愛媛文教会館 (大ホール)
- 参加者 (189 名)

学校・家庭・地域連携推進事業関係者 (地域コーディネーター等)、学校運営協議会委員、教職員、市町教育委員会職員、社会教育関係団体関係者 (公民館、PTA 等) 等

(3) 研修内容

①県外事例発表 「牟礼ミラタクネット」(牟礼地域協育ネット協議会〔山口県防府市〕)

発表者：牟礼公民館教育指導員 高崎 豊子 氏

防府市立牟礼中学校教頭 曲 浩範 氏

県外事例発表では、山口県防府市の「牟礼ミラタクネット」(牟礼地域協育ネット協議会) から牟礼公民館教育指導員の高崎氏と牟礼中学校の曲教頭をお迎えし、学校づくりと地域づくりの一体的な推進について、牟礼地域の事例を発表していただいた。

「牟礼ミラタクネット」(牟礼地域協育ネット協議会) は、3つの小中学校区の子どもたちを幼児期から中学校卒業程度までの15年間に渡って見守り、支援するための組織であり、「コミュニティ・スクール」+「地域」という構図で構成され、元教員の公民館教育指導員が地域コーディネーターとして配置されている。

発表者の高崎教育指導員からは、地域ぐるみのあい



さつ運動や学習支援、ボランティア活動等について、地域のつながりを活かして子どもたちの育ちを支える仕組みづくりや具体的なコーディネート方法を、また、牟礼中学校の曲教頭からは、教職員の働き方改革の視点を踏まえた学校運営協議会及び地域学校協働活動の在り方や、地域とともに取り組むボランティア活動の具体的内容及び成果について分かりやすくお話いただいた。

「牟礼の子どもは牟礼で育てる」という地域の温かい思いとかかわりを緩やかなネットワークとして構築し、学校・家庭・地域が、ふるさとを愛し誇りに思う子どもたちを育てたいという共通の願いを持って地域まるごとで子どもたちの育ちを応援する牟礼ミラタクネットの取組は、参加者にとって新たな気づきと今後の方向性を示していただける内容であった。

参考になったこと・感想・意見

- まさに地域と学校が一体となってCSを推進していた。すぐには防府市のように推進していくのは難しいが、今ある取組をつなげ、組織化していきたい。
- CSが地域と協働して行っている様々な魅力的な活動事例を知ることができた。
- CSを力強く推進していくためには地域コーディネーターの存在が不可欠であることが分かった。小学校単体ではなく中学校区でつながりを持たせながら学校・地域づくりを行っていることが参考になった。
- 学校と地域がうまくかみ合ってる。「お互いが負担と思わない」という、よい関係を築いている。
- 社会貢献できる人材を育てたいという理念に共感した。思いや意識を共有・継続していく工夫や個々の実践はもちろん、持続可能性などの留意点についても非常に参考になった。

②県内事例発表 「内子町教育委員会」

発表者：内子町立立川小学校長 中本 克也 氏

県内事例発表では、内子町教育委員会から、学校運営協議会の立ち上げを直接サポートしてきた前学校教育課課長補佐の中本氏をお迎えし、コミュニティ・スクールの導入過程と持続可能な学校運営の仕組みづくりについて発表していただいた。



内子町は、平成30年度から「地域の特性を生かした質の高い教育の実現と地域の活性化」等を目指し、コミュニティ・スクールの導入を進めている。平成31年3月に、併設校の特徴を生かして、小田小学校・中学校に学校運営協議会を設立し、両校は内子町のCSのモデル校として、子どもたちの夢を応援する活動に取り組み、確かな一歩を踏み出すことができた。現在は、「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な推進を目指し、令和2年度は五十崎地区でのコミュニティ・スクールの拡充に取り組んでいる。

中本氏からは、コミュニティ・スクールの導入と理解促進に向けて実施してきた研修会や準備委員会、また地域住民を対象としたアンケート調査等の取組につ

いて分かりやすく発表していただき、事務局として配慮したことや苦勞・努力したこと、役に立ったこと恵まれていたこと等を率直に語られ、参加者にとって多くのヒントをいただいた。

参考になったこと・感想・意見

- 行政の苦勞や立ち上げまでの苦勞がよく分かった。現場担当者じゃないと言えないことまで話していただき大変参考になった。
- 率直な意見が多く、導入前後の流れも分かりやすく大変参考になった。資料が大変参考になる。
- CSではない学校関係者として参加したので、CS導入過程を具体的に聞け、また事務局として携わった校長先生の心の変化を知ることができて、本当によかった。
- これからCSを立ち上げていく学校にとって、どのような準備を進めていけばよいのか、すでに立ち上がったところは次のステップに入るための参考になったと思う。地域との協働を進めていくには、まず学校（教職員）が地域に入っていかなければ何も始まらないと思う。それが働き方改革に逆行して教職員の負担になっていけない、そのバランスが難しい。
- 同じ行政の立場でのCS推進の取組は共感できる内容が多かった。CSの理解促進のために、まだ市教委としてできることがあると感じた。是非本市においても内子町の取組を参考にCSを推進していこうと思った。

③インタビューダイアログ

登壇者： 牟礼公民館教育指導員 高崎 豊子 氏
防府市立牟礼中学校教頭 曲 浩範 氏
内子町立立川小学校長 中本 克也 氏

指導助言：愛媛大学大学院教育学研究科 特定教授 遠藤 敏朗 氏

インタビュアー：愛媛県教育委員会事務局社会教育課 担当係長 中尾 治司

事例発表者3名と愛媛大学大学院から遠藤教授を指導助言者に招き、事例発表では詳しく聞けなかった内容や、参加者からの質問に応えながら、「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組について参加者と一緒に考えるインタビューダイアログを実施した。

地域コーディネーターになった経緯や役割、コミュニティ・スクール導入にあたっての教職員の意識の変容、地域人材や活動資金の確保、コロナ禍における活動の工夫等についての質問が寄せられ、参加者とともに学校・家庭・地域の連携・協働を考える学びの時間となった。

指導助言の遠藤教授からは、地域全体で子どもたちの未来を考える「牟礼ミラタクネット」の取組や教育委員会が使命感を持ってCSの立ち上げに関わっている「内子町教育委員会」から学ぶことや、私たちひとりひとりが当事者意識と共通の目標をもって学校と地域の連携・協働を推進していくことの大切さを御教示いただいた。

参考になったこと・感想・意見

- どのようないきさつがあってコーディネーターになったとか、学校運営協議会を設置したかとか等の裏話が聞けて面白かった。特に、後半の単刀直入な質問に対する三者三様の回答がよかった。
- 育てたい子どもを象徴的に表すことの効果、活動や組織の愛称の活用など様々な面からのアプローチを学ばせてもらった。
- インタビュアーの軽快なトークにより、登壇者の方々が事例発表以上に率直な意見を述べられていてとてもよかった。地域と学校がWIN・WINになるよう無理はせず持続可能な取組をして県内に広がってほしい。
- 発表に表れない具体的で率直な話が聞けて参考になった。実施に向けて負担感もあったが、「持続可能」「無理のないように」という言葉が救いになった。
- 多岐にわたるお話を聞くことができたのは大変有益だった。本音で話されたこと、次につながる、未来につながる方向に常に向かっていたことが素晴らしかった。



(4) まとめ・来年度の研修会に向けて

コミュニティ・スクールに関する研修会を県教育委員会が主催で実施したのは今回が初めてということもあり、コロナ禍での開催にもかかわらず、市町学校・家庭・地域連携推進事業担当を始め、学校関係者、PTA等の社会教育団体関係者等の189名の方に参加いただいた。本来は、ワークショップを通して、参加者のつながりづくりや情報交換の時間を設ける予定であったが、感染症対策として個人ワークで個々の取組を振り返るとともに、インタビューダイアログを通して、連携事業担当者や学校関係者、コーディネーター等の様々な立場の参加者の率直な質問に答え、登壇者と参加者がともに学校と地域の連携・協働の在り方について考えることができるようにした。全体の満足度も、肯定的意見が99%で、参加者の関心とニーズに合った内容の研修会が開催できたものと思う。

愛媛県内のコミュニティ・スクールや地域学校協働本部は年々増加しており、「地域学校協働活動」と「コミュニティ・スクール」の一体的な取組の推進が求められている。今回の研修会の成果と課題を踏まえ、次年度はさらに参加者の学びと実践につながる研修会を目指して、今後も学校・家庭・地域連携推進事業の拡充を図っていきたい。

地域学校協働活動、コミュニティ・スクールについての意見、要望等

- コーディネーターとして行政と学校と地域の人をつなぐことが仕事かな、と思っているが、結局決断する権限等はないので二度手間になることもしばしばあり、悩んでいる。コーディネーターの役割や動き方のような研修会をお願いしたい。

- コーディネーターの役割等具体的に学ぶ機会がほしい。地域学校協働活動とはどのようなものか未だによく理解できていない。予算確保が難しい。
- 新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」3密回避の中で、これまでの活動が難しくなっていくと予想される。その視点から、どのような活動を行うことが可能か助言していただける研修会等があると有難い。
- 中規模、大規模校はどのようにCSを導入しようとしているのか、又は、取り組んでいるのか、具体的な情報がほしい。
- 地域と学校の連携・協働は重要であると同時に、ごく当たり前のことである。組織づくりは重要なことではなく、地域・学校双方が自由な発想で活動し、つながることが大切。それができるための制度に！

4 放課後子ども教室・えひめ未来塾指導者研修会

(1) テーマ

「地域で愛顔あふれる子どもを育てよう～子どもと大人が学び合う放課後にしよう！～」

(2) 研修の概要

- 日 時 令和2年10月27日（火）9：25～12：30
- 場 所 県生涯学習センター
- 参加者（69名）

地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、放課後子ども教室及びえひめ未来塾に携わる支援員・サポーター（※放課後子ども教室指導者については、特に経験が3年以下の方）、「学校・家庭・地域連携推進事業」関係スタッフ、市町教育委員会関係職員 等

(3) 研修内容

① 講演

演題：「魅力ある大人のススメ」

講師：えひめこどもの城園長 敷村 一元 氏

講演会では、えひめこどもの城の敷村園長をお迎えし、子どもへの接し方や子育て、放課後の子ども支援の重要性等、御自身の長年にわたった実践を踏まえながら御講演いただいた。放課後の居場所づくりに関わる参加者にとって、子どもとの良好な関係をつくるうえで大変参考となり、参加者アンケートでの肯定的な意見は98%と高い評価だった。



参考になったこと・感想・意見

- とても分かりやすく、自分でも実施していこうと思えることがたくさんあったので、今後の教室運営に生かしていきたいと思う。
- 感染症対策の中、忘れかけていたことを思い出すことができた。対策をしながら、支援者としてしなければならないことを考えたいと思う。
- 子どもたちに対応する際、自分たちの対応の仕方が大きく影響することを再確認できた。「笑顔」で子どもたちが懂れる存在になっていきたい。

○ 子どもたちに影響を与えている自分はどうかろうと、振り返ることができた。立ち居振る舞いを意識しようと思った。

②実技講習・事例発表

【体験活動部会】

○「読書ボランティアビギナーズ講座」

えひめ紙芝居おはなし会 丸山 康子 氏

講師に丸山氏をお迎えして、読み聞かせや紙芝居における基本的な技術を教えていただいた。丸山氏の優しい笑顔と人柄に多くの参加者が引き込まれるとともに、絵本や紙芝居が子どもの心の成長に深く関わっていることを実感するなど大変有意義な研修となった。



参考になったこと・感想・意見

- 昨年から小学校の読み聞かせに参加しているが、全く分からないままのスタートだったので困ることがたくさんあった。今日の話をお聞かせいただき、とても勉強になった。
- 改めて、絵本の読み聞かせ、紙芝居の手法が、具体的によく分かり、今後、活用したいと思った。
- 読み聞かせ、紙芝居、大変楽しく講習を受けることができた。実演では、基本的なことから教えていただいたので参考になった。

【学習支援部会】

○インタビューダイアログ

事例発表「小松地域未来塾」

地域コーディネーター 處 淳子 氏

小松公民館長 曾我部米治 氏

学習支援部会では、長期休業中に中学生への学習支援を実施している「小松地域未来塾」の取組について、地域コーディネーターの處氏と小松公民館の曾我部館長に事例を発表していただいた。学習支援とともに、郷土学習やキャリア教育等の活動を取り入れながら、たくましく人生を切り開く力を地域との交流を通して育む様々なチャレンジについて、インタビューダイアログ形式で参加者と共有しながら、学びを深めることができた。



参考になったこと・感想・意見

- 素敵な笑顔のお二人から、新しいことにチャレンジしていく力をいただいた。インタビューダイアログという形で引き出していただいたことで、とても深まった。
- 處さんのお話に、未来が見えた。カッコイイ大人、先輩像の成功例だと思う。
- 自分も子どもたちと一緒に学んでいきたいと強く思った。
- 決意と行動力が周りの者を動かしていく。勇気をもらえた内容だった。

(4) まとめ・来年度の研修会に向けて

講演会では、例年、子どもたちの活動に関わる経験豊かな講師の魅力ある講演内容のおかげで参加者の満足度はとても高い。また、今年度から、体験活動部会と学習支援部会の二つの部会を設け、参加者のニーズに応じて具体的な支援方法を学べるとともに、放課後等の子ども支援に関わる方々との交流も深めることができた。実技講習については、レクリエーションゲーム、科学工作、お菓子作り等、各教室で簡単に取り入れることができるテーマを設定してきた。今後も、アンケートをもとに、参加者のニーズや、各教室の環境を踏まえながら、より多くの指導者に参加していただくとともに、コロナ禍における取組事例なども紹介するなど、子どもたちの健やかな育ちに貢献できる研修会にしていきたい。

5 新・放課後子ども総合プラン指導者研修会

(1) 研修の概要

- 日 時 令和2年12月13日(日) 12:40~16:35
- 場 所 道後温泉にぎたつ会館
- 参加者 (64名)

放課後児童クラブ職員(放課後児童支援員及び補助員)、放課後子ども教室指導員(コーディネーター、協働活動支援員等)、児童厚生員、行政担当者

(2) 研修内容

①行政説明 放課後子ども教室(愛媛県社会教育課)

放課後児童クラブ(愛媛県保健福祉部生きがい推進局子育て支援課)

新・放課後子ども総合プランの概要を始め、放課後子ども教室及び放課後児童クラブの内容や各指導者の役割等の説明をした。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策にも触れ、参加者の多くが、放課後子ども教室及び放課後児童クラブの持つ意義や重要性、安全・安心な教室及びクラブ運営について理解を深めた。

参考になったこと・感想・意見

- コロナ禍で、社会の在り方や物事に対する考え方が変わってきている。マスク着用、ソーシャルディスタンス等により、子どもの表情が分かりにくく、子どもと指導者、地域の方々の距離感が難しい。
- 子ども教室と児童クラブの関係性、位置付けがよく分かった。地域を含め、各場所の役割と長所を生かしつつ、相互理解と協調を推し進めていきたいと思う。
- 子どもたちを取り巻く教育面からの変化、生活面からの変化など、データをもとに説明していただいた。放課後の有効的な活用が求められるときなので、子どもの成長に有益な活動を考えたい。

②講演

テーマ：「新・放課後子ども総合プランにおける
放課後児童の環境づくりと地域連携」

講 師：NPO法人とべ子育て支援団体ぽっかぽか
代表理事 村上 明子 氏



とベ子育て支援団体ぽっかぽか代表理事の村上氏をお迎えし、放課後児童のための環境づくりや地域連携の重要性について御講演いただいた。自身の実践事例や放課後子ども教室及び放課後児童クラブでも活用できるレクリエーションゲームを交えながら、地域をつなぐコーディネーターの役割や地域団体及び行政との連携の仕方等、これからの放課後支援の在り方について理解を深めることができた。参加者がすぐにでも取り組める事例もあり肯定的な意見は100%というとても高い評価であった。

参考になったこと・感想・意見

- レクリエーションゲーム、名刺ゲーム等、お金をかけずに身近なもので遊べるミニゲームは、とても参考になった。
- 多くの人たちと積極的につながりを持ち、その関係をうまく活用しながら、子どもたちの成長、育成のために努力されていて、すばらしいと思う。地域との関係を大切にした取組は勉強になった。
- 地域のいろいろな団体の協力を得ながら子どもたちの体験の場を設定することで、地域の子どものつながりを深めるよい場づくりにもつながっていると感じた。

③事例発表・質疑応答

登壇者：新居浜市 でこぼこクラブ 大元 好美 氏
西条市 玉津児童クラブ 曾我部はるみ 氏・伊藤 珠美 氏
とベ子育て支援団体ぽっかぽか 村上 明子 氏

新居浜市の「でこぼこクラブ」では、同一小学校内の学習支援を主とした放課後子ども教室「放課後まなび塾」や児童クラブ「うすいクラブ」と一体型の運営を実施しており、企業の支援プログラムを取り入れた活動や夏休みの体験活動（ヨガ、軽スポーツ、人権学習、囲碁将棋、マジックショー等）を例に、実効性のある連携のあり方について発表していただいた。

西条市の「玉津児童クラブ」では、困り感のある児童への支援の必要性が生じたことに伴い、療育支援に関する研修体制や人員体制を整えたことや、同一小学校内の子ども教室「玉の子教室」との一体型の運営のために、運営委員会への参画や出欠確認の連携、実施場所への送迎等の具体的に取り組んでいる方法について紹介いただいた。

事例発表後は、質疑応答の時間を設け、講師や事例発表者に参加者からの質問に答えていただきながら、放課後における子ども支援体制整備や放課後児童クラブと放課後子ども教室の効果的な一体型の取組手法等について学びを深めることができた。



参考になったこと・感想・意見

- 児童クラブの課題や工夫した取組がよく分かった。教室とクラブが連携することで、放課後が豊かで充実したものになっている。
- 療育支援の取組がよかった。トラブルが起きた時の支援員の対応について、言葉掛けや態度など支援員や補助員全員で共通理解を図ることが必要だと感じた。
- それぞれの現場の声を聞くことができよかった。児童クラブの現状は大変なものがあり、福祉、教育の協力というより、一体化が必要ではないかと思う。

(3) まとめ・来年度の研修会に向けて

講演会では、理論と実践を兼ね備えた講師の方々のおかげで参加者の満足度はとても高い。また、事例発表については、一体型・連携型の事例発表を継続することで、参加者の疑問や課題の解決に向けて状オフ共有できる場を設け、県内における一体型・連携型の放課後子ども教室及び放課後児童クラブの拡充を図っていききたい。

6 家庭教育支援研修会

(1) テーマ

コロナ禍をはじめとする社会の変化に対応した多様な支援方法を探る
～オンラインでつながる全国の先進事例と愛媛の家庭教育支援～

(2) 研修の概要

- ① 3事例の取組概要を資料により事前に把握（個別に質問を提出する）
- ② 動画視聴（2/15～2/26中に視聴する）
 - ・研修会の趣旨の説明（3分）
 - ・県外3事例の発表・質疑応答（それぞれ約45分）
- ③ 動画視聴後にアンケート提出
- ④ 質問に対する回答をホームページで確認する。



(3) 研修の特長

- ① コロナ禍対応のため、Zoomを活用して、県外の先進事例の発表・質疑応答を録画し、オンデマンド配信（YouTubeによる動画配信）を行った。
- ② 「令和元年度家庭教育支援チームの活動の推進に係る文部科学大臣表彰」受賞チームの先進的な取組を視聴できた。
- ③ 愛媛県内の家庭教育支援チームの代表者が動画に出演し、質問等を行った。

(4) 事例発表・質疑応答について

① 釧路市家庭教育支援チーム

- 家庭教育講座「ほわっと」開催
 - 生活習慣啓発資料の作成・配布
 - 訪問型アウトリーチによる直接支援
- ※県内家庭教育支援関係出演者：愛南



町、伊予市、久万高原町

②島田市家庭教育サポートチーム

- 「親学ノート」や「つながるシート」を活用した学習会の開催
- 就学時健診や入学説明会における「親学講座」の実施

※県内家庭教育支援関係出演

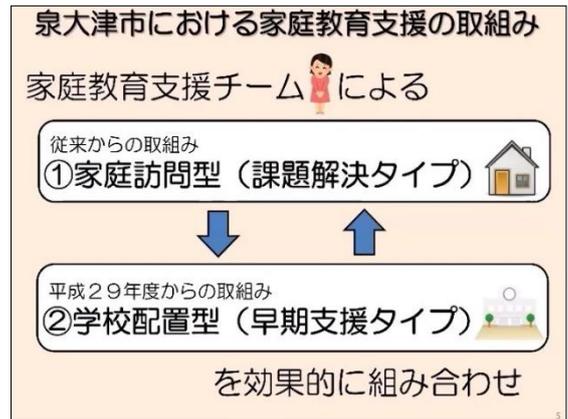
者：大洲市、四国中央市、西予市



③泉大津市家庭教育支援チーム

- 家庭訪問型と小学校配置型の2つの支援を組み合わせた活動
- 令和元年度から教育と福祉の連携を強化し、支援する保護者を拡大

※県内家庭教育支援関係出演者：宇和島市、上島町、砥部町



(5) 家庭教育支援関係者の感想

- コロナで活動が制限されているけれども、オンラインでこのような研修会ができることが分かったので、今後の活動に生かしていきたい。
- 幼稚園・保育所・学校との連携がとれていて、釧路市全体で家庭教育支援に取り組み、成果を上げていることが分かった。
- 島田市は「親学ノート」「つながるシート」などを活用し、家庭教育支援に系統的に取り組んでいることがとても参考になった。また、オンラインを活用することでコロナ禍でもこのような研修ができて本当によかった。
- 今までには相談活動も学習会も要望があつてからの対応が多かったので、島田市のこちらから出向いていく活動が参考になった。
- 島田市独自に「親学ノート」や「つながるシート」を作成したり、「親学講座」から活動をつなげたりしていることが素晴らしいと思った。また、学校と行政、家庭教育サポートチームが一体となって取り組んでいることが成果につながっていると感じた。島田市の取組を参考にして、より保護者に寄り添える支援をしていきたい。
- これからも子育てをしている保護者の応援団として活動していきたい。
- 最近は、学習活動や情報提供を中心に活動していたので、発表を聞いて相談活動を充実させていきたいと思った。
- 保護者に寄り添って、保護者の心を元気にすることが支援になることが分かった。
- 講座を中心にした学習会を行っているのでコロナ禍で実施できないことが多かった。まず、自分が保護者に寄り添い話を聞くことができるようになり、保護者の周りにサポーターを増やしていくようにしたい。

(6) 来年度の開催に向けて

今年度は、Zoom や YouTube を有効に活用することで、コロナ禍での新しい研修会の持ち方を提案した。ICT の活用により全国の先進事例を3つ紹介したり、オンラインで事例発表者と愛媛県家庭教育支援関係者とをつないだりすることができた。ただ、一般の視聴者については、事例発表者に直接話を聞くことができなかったため、今後、アンケート結果等を踏まえて改善策を考え、より効果のある研修会の実施につなげたい。

【事例発表者】



(釧路市家庭教育
支援チーム)



(島田市家庭教育
サポートチーム)



(泉大津市家庭教育
支援チーム)

【県内家庭教育支援関係者】



(久万高原 Happy サポート)



(あいなん子育て応援
グループ)



(伊予市家庭教育・子育て
サポートグループ)



(せいよ家庭教育・子育て
応援グループ)



(四国中央市家庭教育
支援チームふれ愛グループ)



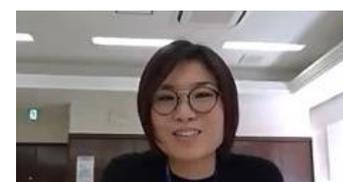
(大洲子育てサポート
“そよ風”)



(宇和島市家庭教育
支援チーム)



(砥部町教育委員会)



(上島町教育委員会)

1 普及啓発事業①「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」（兼合同研修会）

(1) 目的

県内の幼稚園から高等学校までの保護者・教師・地域住民・福祉関係者・警察関係者・企業等の子どもたちに関わる大人が一堂に会して、研修や情報交換を行い、社会総がかりで子どもたちを育むための方向性を探る。

(2) 開催結果

- 令和2年11月25日（水） 12:30～16:45
- 愛媛県生涯学習センター・えひめ青少年ふれあいセンター
- 参加者人数

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、288名（人数制限あり）の参加で実施した。

①講演について

講師：教育改革実践家 藤原 和博 氏

講演については、学校支援本部を全国に波及させた藤原氏をお迎えし、講演題を「つなげよう！学校と地域社会～子どもたちの未来を拓くために～」として、学校と地域社会がつながることの大切さについて話していただいた。満足度は、肯定的意見が100%と大変高い評価を得た。



講演では、AIの発達をはじめとして大きく変革する社会の中で、子どもたちにどのような力を付けていけばよいのか、また、周りにいる大人が子どもたちにどのように関わっていけばよいのかを中心に話していただいた。

未来を担う子どもたちに、仲間と一緒に仮説を立てながら、納得解を作り出していく情報編集力を身に付けさせることの大切さや、親でも学校の先生でもない地域の大人が、子どもと「ナナメの関係」を築くことで、子どもたちの豊かな人生につながっていくことについて示唆をいただいた。

地域の子どものために、地域と学校が連携・協働していくためのヒントを得ることができ、あらゆる立場の参加者にとって今後の活動の参考になったのではないかと、参加者のアンケートからも伺うことができた。

参加者の感想（講演）

- 教育や世の中の新しい視点や思考に触れることができた。家庭で行えることにすぐに取り組みたい。
- 藤原先生の話が上手で、心の中で「もやっ」としていたことが明確になった。
- 子育て中、妊娠中でこれからの子どもとの向き合い方について考えさせられた。変わっていく世界の中で私自身も考えを改めていく必要がある。
- 他の人との違いである希少性を高めることの大切さが分かった。
- 地域とのつながり（特に「ナナメの関係」）を大切に、学校でできることを考えたい。参加することを通して本校で行おうとしていることに確信がもてた。
- 正解が一つでない問題に対して、仲間と一緒に仮説を立てながら、納得解をつく

- り出していくことが、子どもたちの未来を豊かなものにするために必要であることを理解できた。また、そのために「情報編集力」を付けていくことが大事であることが分かった。
- 「情報処理力」「情報編集力」「基礎的人間力」という生きる力の逆三角形の話がとても分かりやすく、藤原先生の講演からエネルギーをいただいた。
 - 知識をどのように活用すればよりよい人生を拓けるのかという課題に対して、「情報処理力」と「情報編集力」という言葉を用いて分かりやすく話をしてもらったので、イメージをもつことができた。
 - 自分の学校で目指していることに、勇気を持ち自信をもって取り組もうと思うことができたので、より具体的に進められそうである。
 - 頭の柔らかい大人でありたい。変わったことをしたり、言ったりすることは人間の値打ちが下がることではなく、今後、たくましく生き抜くために必要な力だということが分かった。効率よく子どもが育つ道はないということを感じた。
 - AI化の発達に伴う仕事の減少など、これからの社会が抱える問題提起を皮切りに、今後の世代が必要とする力を、一貫してユーモアあふれる語り口で述べていただき、とても吸収しやすく有意義な講聴となった。特に、今から求められる「情報編集力」については、自分自身がとても不足していることを痛感した。

②分科会について

分科会についても、肯定的意見は94%であり、大変高い評価を得た。(昨年度は95%)

分科会は、「地域学校協働活動(キャリア教育含む)」「地域による教育機会の充実」「人間関係づくり」「子育て・家庭教育支援」「放課後・土曜日等の子どもの支援」等の現代的課題に基づいた5分科会を設定し、各分科会2つの事例発表後、全体協議の時間をとった。質疑応答・参加者の実践を分科会全体で共有できた。



分科会	テ ー マ
第1分科会	<p>【地域学校協働活動(キャリア教育含む)】 地域社会全体で子どもたちを育てる体制づくりをどのように進めるか</p> <p>【発表1】 CSを通して見えてきた地域学校協働活動 四国中央市立南小学校 地域コーディネーター 宮崎 恵 校長 瀬戸丸尚正</p> <p>【発表2】 「高校生の学びの場」を「地域を結ぶ拠点」へ 愛媛県立内子高等学校小田分校 教 諭 今居 弘幸 教育コーディネーター 小田原希実</p>
第2分科会	<p>【地域による教育機会の充実】 全ての子どもたちへの教育機会の充実を図るために地域の支援体制づくりをどのように進めるか</p> <p>【発表1】 放課後まなび塾～地域の力で教育格差をなくすために～ 金栄放課後まなび塾推進委員会 学習支援員 竹林 貴美 公民館主事補 國光 梢</p> <p>【発表2】 子どもたちへの学習支援～誰もが集えるあったかい居場所を目指して～ あったか・学びクラブ スタッフ 古谷 大志</p>

第3 分科会	<p>【人間関係づくり】 いじめのない子どもたちの豊かな人間関係をどのようにして築いていくか</p> <p>【発表1】 学校・家庭・地域が一体となった健全育成「支えあいともに生きる力・心の育成」 西条市立西条小学校 主幹教諭 渡部 朗</p> <p>【発表2】 人間関係づくり 大洲市立大洲北中学校PTA 会長 石村 洋平</p>
第4 分科会	<p>【子育て・家庭教育支援】 保護者と子どもを支え育む子育て・家庭教育支援の体制づくりをどのように進めるか</p> <p>【発表1】 「いのちの授業」～赤ちゃんとのふれあいを通して考えていきたいこと～ えひめこどもの城 園長 敷村 一元</p> <p>【発表2】 子育て中のママに寄り添う活動を せいよ家庭教育・子育て応援グループ グループ員 加藤 千晴</p>
第5 分科会	<p>【放課後・土曜日等の子どもの支援】 子どもたちの放課後等の豊かな教育活動をどのように進めるか</p> <p>【発表1】 愛媛でゆめ教育を広めたい 一般社団法人愛媛ゆめ教育協会 代表理事 芝 飛鳥</p> <p>【発表2】 地域住民と共に行う少年活動の促進 宇和島市立喜佐方公民館 主 事 内田 勇太</p>

参加者の感想（分科会）

- 実践校からの意見はとても輝いていてまぶしく感じた。自校のコミュニティ・スクール導入への取組については、まだまだ団結力が弱いと感じるので頑張りたいと思った。
- 地域に学校以外の居場所がある実情や学校外での活動内容を知ることができた。一人一人を見ながら活動していくことの大切さを感じた。
- 子育て支援等に真摯に向き合っていて共鳴した。コロナ禍でも工夫してイベントが行われていて参考になった。
- 団体、公民館、家庭での子どもの成長に関わる話が聞けて良かった。地域・社会・教育現場の関わり方について考え直すことができた。
- 事業スタッフとして身近な夢をもって、子どもたちと一緒に楽しむことを忘れず、気長に活動を続けようと思った。

参加者からの提言

- コロナ禍で地域社会と子どもとの関わりが希薄になる現在、様々なつながりやその機会をつくり、家以外の居場所があることが大切だと感じた。
- コロナ禍の今だからできることに取り組み、明るい愛媛っ子を育てたい。
- 地域に開かれた学校づくりを進めることで、学校を核とした地域づくりにつなげたい。地域には連携を図ろうという思いをもった人がたくさんいるので上手につなげたい。
- 学校だけでは、子どもたちのタテとヨコのつながりしかつけれないが、地域や家庭と協力して活動する機会が増えればナナメのつながりができ、学力以外の様々な能力を開発することが可能になると思う。
- 「ますますつながりが大切となる」この気持ちを大きくした大会だった。
- ナナメの関係を考える。子どもも大人もタテ・ヨコ・ナナメの関係があると3倍楽しい毎日になると思う。よりよくつなぎ続ける仕組みづくりについて学びたい。
- 「地域とともにある学校づくり」を心掛け、「学校とともにある地域づくり」を実

現したいと思っている。

- 子どもたちに生まれた地域で過ごした時間を大切にしてほしい。そして、将来、進学や就職のために地域を離れたとしても、何らかの形で地域と関わり続けてほしい。
- 学びの場は、学校だけではないこと、多様な学びの場が地域にあるということ、それを実現していく母体が地域学校協働活動だと思った。
- 想定外の出来事にも対応できる柔軟な力を持った人を育て、子どもたちとしっかり関わりを持つことで、将来、地元に戻ってくる人を育てる。
- 子どもたちといっても様々な子どもたちがいる。一人ひとりに行き届いた支援ができるよう探り探りでも方法を見つけていきたい。
- 「全ての子どもたち」「だれ一人取り残さない」をキーワードに学校でも家でもない居場所を楽しくつくりたい。
- これからは、ICTを活用したハイブリッドな授業やイベント、地域行事が主流になっていくと思うので、実践できるようにしていきたい。
- 教育関係者だけではなく、地域住民に対して学校・家庭・地域が連携していくことの大切さを啓発していく必要を感じる。

(3) 来年度の開催に向けて

今年度のアンケートや反省をもとに、参加者のニーズ、現代的課題と社会の要請等を検討し、来年度の講演講師や分科会のテーマを設定したい。また、愛媛の子どもたちの健やかな育ちのために、学校・家庭・地域の連携・協働について、社会総がかりで考え、学び、深めていく「集い」にしたい。



2 普及啓発事業②事例集

事例集の作成・配布

(1) 内容

県事業及び「地域学校協働活動」「えひめ未来塾」「放課後子ども教室」「土曜教育活動」「家庭教育支援」の取組について、実施市町の優れた実践事例を冊子に取りまとめ、関係者等に提供する。

(2) 配布先

県教育委員、社会教育委員、地域と学校の連携・協働体制構築推進協議会委員、文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長、各市町学校・家庭・地域連携事業担当課、学校教育主管課、児童クラブ主管課、各小中学校、各公民館、教育関係団体長、各保健所長、子ども・女性支援センター所長、県立社会教育施設長、各教育事務所長、教育委員会事務局関係課長、子育て支援課長 等

(3) 配布方法

データの提供及びホームページでの公開

5	教育サポート企業活用促進事業
---	----------------

1 目的

教育支援を実施する企業・NPO等の活用を促進し、地域学校協働活動を活性化させるとともに、学校と企業・NPO等の連携促進による教職員の負担軽減を図る。

2 内容

対象活動名 研修会テーマ	実施日 会 場	参加 人数	主な研修内容
教育サポート企業 フェスタ（土曜日・ 放課後等の豊かな 教育活動推進研修 会） 「えひめ学校・地域 教育サポーターを 活用し、社会総がかりの教育活動の充 実を図ろう」	R 2.10.9（金） 松山市男女共 同参画推進セ ンター（COM S）	128名	○開会行事 ○講演 「子どもを育む「縁」を結ぶ～コミュニティに秘められた“経験知”を教育力に変える」 昭和女子大学特任教授 興梠 寛 氏 ○事業説明 ○えひめ学校・地域教育サポーターによる 模擬授業（21社の企業・団体） ○質問タイム ○閉会行事

3 研修の実際

(1) テーマ

「えひめ学校・地域教育サポーターを活用し、社会総がかりの教育活動の充実を図ろう」

※ えひめ学校・地域教育サポーター（昨年度までの名称は、えひめ学校教育サポート企業）
 出前授業や会社見学、資料提供等を通して、学校及び地域における教育活動に対して支援を行う
 企業・団体等。教育委員会HPにデータベース化し、R2.11.1現在200社が登録。

(2) 研修の概要

- 日 時 令和2年10月9日（金）10：00～15：50
- 場 所：松山市男女共同参画推進センター（COMS） 5階大会議室 他
- 参加者（128名）
 土曜教育活動関係者、放課後子ども教室関係者、学校・家庭・地域連携推進事業関係者、市町教育委員会職員、企業・団体関係者（えひめ学校・地域教育サポーター）、教職員、社会教育関係団体関係者（公民館、PTA、婦人会、愛護班等） 等

(3) 研修内容

①講演

講演については、昭和女子大学グローバルビジネス学部特任教授 興梠 寛（こうろき ひろし）氏をお迎えし、講演題を「子どもを育む「縁（えにし）」を結ぶ～コミュニティに秘められた“経験知”を教育力に変える」として、学校・家庭・地域の連携による教育活



動の必要性等についての講演を行った。

講演では、なぜ、学校・家庭・地域のパートナーシップによる教育活動が必要なのか、子育て、家庭教育の現状に関するデータや国の方針に基づき説明いただき、その活動にはボランティアの存在が不可欠であることをお話しいただいた。そして、ボランティアは、「志は高く、活動のハードルは低く」することが大切で、人生の「経験知」の全てが子どもを育む糧になることから、ボランティアは全ての人にチャンスがあると力説された。

さらに、子どもの人間力・社会力・学ぶ力を育む教育コミュニティを創造するためには、企業・団体の参画なしでは実現できないとし、企業の社会的責任や役割についても説明いただき、教育関係者、企業・団体関係者双方にとって、今後の教育支援活動の実践への手掛かりとなる講演内容であった。講演の満足度は、肯定的意見が100%と好評価を得た。

②模擬出前授業・質問タイム

企業・団体（えひめ学校・地域教育サポーター）による、30分程度の模擬出前授業を行った。昨年度は活動の説明のみに終始したが、今年度は実際に参加者が出前授業を体験することを通して、その周知と活用を進めることと、企業・団体が互いの授業内容を知り、情報交換することで授業内容の充実につなげることを目的として実施した。

198社、全てのえひめ学校・地域教育サポーターに案内したところ、別表のとおり33の企業・団体の参加（内、21社が模擬出前授業を実施）があり、企業・団体側の関心の高さをうかがうことができた。

参加者にとっても、企業・団体の方と直接顔を合わせながら、実際に楽しく授業を受けることができたことは、事業への活用につながりやすいと好評であり、模擬出前授業は大きな成果があった。アンケートの肯定的意見は100%と好評価を得た。

(4) 大会を通じての満足度、来年度に向けて

全体の満足度は、肯定的意見が100%で、参加者のニーズに合った内容の研修会が開催できたものと思う。（昨年度の肯定的意見94%）

研修会后、えひめ学校・地域教育サポーターを早速活用したという報告を何件か受けており、フェスタの成果を感じることができた。

今年度から3年計画で、東・中・南予で本フェスタを実施することとしており、来年度は南予での開催を予定している。今年度は、えひめ学校・地域教育サポーターに限ったが、来年度は土曜学習応援団（文部科学省主催）も取り入れた模擬出前授業ができればと考えている。そして、内容や運営面での反省も生かしながら、今後も教育関係者と企業等関係者が連携して、社会総がか



りで取り組む教育活動の充実を図りたい。

令和2年度教育サポート企業フェスタ協力団体一覧表

企業・団体名(模擬出前授業を実施)		18	一般社団法人 愛媛ゆめ教育協会
1	株式会社伊予銀行	19	まつやま NPO サポートセンター
2	SMBコンシューマーファイナンス株式会社 松山お客様サービスプラザ	20	愛媛菅公学生服株式会社
3	愛媛県警察本部 生活安全部 少年課	21	愛媛県産業技術研究所 企画管理部
4	社会福祉法人 愛媛県社会福祉事業団 (愛媛県視聴覚福祉センター)	企業・団体名(模擬出前授業は行わない)	
5	愛媛県消費生活センター	1	愛媛銀行
6	愛媛県職業能力開発協会	2	愛媛県 中予地方局 総務企画部 総務県民課
7	愛媛県動物愛護センター	3	愛媛県歴史文化博物館
8	愛媛県 土木部 砂防課	4	河原電子ビジネス専門学校
9	株式会社愛媛 CATV	5	河原医療福祉専門学校
10	四国電力株式会社 愛媛支店	6	河原パティシエ・医療・観光専門学校
11	日本赤十字社愛媛県支部	7	公益社団法人愛媛県看護協会
12	愛媛県美術館	8	株式会社ダイキアクス
13	NPO法人 NEXT CONEXION	9	株式会社レデイ薬局
14	愛媛トヨタ自動車株式会社	10	日本証券業協会
15	公益財団法人 松山観光コンベンション協会	11	公益財団法人愛媛県診療放射線技師会
16	華彩フラワーカレッジ・ロイヤルフローリスト華彩	12	しげのぶ清愛園
17	石田クリーニング 株式会社		